

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
平成29年度	市単	名張市市民活動活性化ゾーン形成計画			地域経営室
事業実績額(円)		44,760,400			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	①生涯現役プロジェクト			
	基本的な方向	①健康なばりの推進/世代間交流の促進による地域の元気創造/支え合いの地域福祉の推進/「達成感」や「連帯感」を育む生涯スポーツの推進/多様な生涯学習機会の提供			
	具体的な施策	②時代に合った地域づくり、安心・安全な暮らしを守る			
事業期間		平成29年度			
事業の目的		(施設の目的) 「名張地区まちづくり推進協議会」(以下、協議会)は、名張市民センターの指定管理を受け、市民センターに拠点を置き、地域内で様々な実行組織をコーディネートしながら、地域ビジョンの達成に向けて活動を行っています。また、名張市は、平成28年4月1日から公民館を市民センターに転換しました。これは、施設において営利事業や営利を伴う飲食など市民の自由な発想による活用を可能としました。地域内の各種事業者と住民との協働による様々な起業や情報発信をすることで雇用創出、移住者増加などに繋がることが期待されているところです。 名張地区では、古来、街道の要所や観阿弥創座の地であったことから、様々な文化や伝統が行き交うまちとして発展してきました。このような「地の利」を活かし、協議会は、地域住民のみならず、他地域の住民や観光客等が足を運ぶことで、さらに地域活力の活性化、地域内経済の循環を生む多機能施設に進化させることを目的とします。 (実施予定の事業) 市民センター別館の和風建築を生かした「『食べてだあこ』おもてなし事業」は、協議会が実行組織を立ち上げ、運営しながら、将来的には地元野菜等を使ったレストランの経営に繋がっていくことも視野に入れています。また、障害者が製造したパンやお菓子の常時販売コーナーの設置、周辺農村地域との交流による地産地消市場の運営、市民センターの登録サークル等による手作りの雑貨や個人による「ショップ『よってだあこ』」の実施等、地域づくり組織が主体となることで住民発案の事業が具体的に実行できます。 ※拠点での実施事業による売上見込み：事業開始年度3,600千円(次年度以降は、前年度売上の3%増)			
重要業績評価指標(KPI)	指標	基準値(H28.3)	R元年度目標値	R元年度実績値	
	拠点での実施事業による売り上げ	—	1,000千円増	△778千円(6,532千円)	
	ショップ『よってだあこ』の参加によって起業につながった件数	—	1件増	0件	
	ショップ『よってだあこ』に参加する市民団体の数、お菓子事業への協力事業者数	—	5団体増	△5団体	
平成29年度の取組概要		・名張市民センター別館(旧高北邸)について、耐震補強、トイレ改修、厨房、事務室等の改修工事を行い、和風建築を生かした「『食べてだあこ』おもてなし事業」として、まちづくり協議会が実行組織を立ち上げたカフェの運営に向け、経営活動の拠点としてふさわしい施設の整備を行いました。			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和2年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	・名張市では各地域での取組が熱心、もっと「暮らしのまち」をアピールしていけばいいと思う。 ・高齢者の孤独死が深刻化し、人との接触を密にするようにいわれている国もある。しかし、このコロナ禍で人との接触に制限がある中では、さらに深刻化している。災害時などの有事の際には人と人との支え合いで助けあうのは非常に有効。ソーシャルキャピタルで地域に存在しているものが見える化できれば、「孤独」や「うつ」が解消できると思う。 ・コロナ禍でコミュニケーションツールとしてZOOMなどが浸透したが、地域や高齢者にとっても使用できるような環境が必要なのは。			
	結果の公表	令和2年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		☒ 有 ・ 無 (時期 : 令和2年8月予定)			
総合評価		地方創生に効果があった。			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			